

瀬戸内寂聴師の晩年を秘書として支えながら、エッセイストとしても活躍



せ お
瀬尾 まなほ

* 瀬戸内寂聴元秘書

■プロフィール

1988年2月22日兵庫県神戸市出身。京都外国語大学英米語学専攻。大学卒業と同時に寂庵に就職。3年目の2013年3月、長年勤めていたスタッフ4名が退職（寂庵春の革命）し、66歳年の離れた瀬戸内寂聴の秘書として奮闘の日々が始まる。瀬戸内宛に送った手紙を褒めてもらったことにより、書く楽しさを知る。瀬戸内について書く機会も恵まれ、2017年6月～2022年12月『まなほの寂庵日記』『その後『P.S. 寂庵より』に改訂』（共同通信社）連載。15社以上の地方紙にて掲載されている。2021年4月～2022年3月まで読売新聞にて「秘書まなほの寂庵ごよみ」を連載。2019年～2021年クロワッサンにて連載「口福の思い出」。著作「おちゃめに100歳！寂聴さん」、「寂聴先生、ありがとう」。瀬戸内寂聴との共著「命の限り笑って生きたい」、「寂聴専先生、コロナ時代の『私たちの生き方』教えてください」。「今を生きるあなたへ」。2022年1月「寂聴さんに教わったこと」、2月「#寂聴さん 秘書がつぶやく2人のヒミツ」。

困難を抱えた若い女性や少女たちを支援する「若草プロジェクト」理事、社会福祉法人ねむの木学園理事を務める。

現在は5歳と3歳の二児の母。育児と両立しながら引き続き瀬戸内に関する仕事をし、執筆や講演活動をおこなっている。

主な講演テーマ

『寂聴先生との10年間』

